初節句ののぼり旗が立てられた店舗

京町の吉田秀樹さんの初節句写真（昭和 29 年）

端午の節句

柳川古文書館館長　田渕義樹

今回は、京町の吉田秀樹さん（64歳）から御寄贈いただいたアルバム3冊の中に貼ってある、端午の節句の写真を紹介します。

吉田秀樹さんは昭和28年10月のお生まれ、今も続くお肉屋さんの3代目です。もともと八女出身の吉田さんのご祖父が瀬高町下庄（みやま市）で開業し、昭和26年に現在の場所に店舗を構えます。

掲載の写真は、吉田さんの初節句のときのものですので、昭和29年の5月ということになります。床の間の前に、ご親戚や食肉組合の方から頂いた、兜や金太郎の人形、張り子の虎、のぼり旗などが所狭しと並べられています。鯉の形の生菓子は、柳川のご友人からの贈り物のようです。このような初節句の形が、一般的な柳川のあり方であったのか、八女や瀬高のあり方なのかはっきりしないと吉田さんはおっしゃっています。平成16年に刊行した『柳川の民俗概観』の「柳河地区」初節句の項目には、「鯉のぼりやのぼり旗、トラの張り子などが贈られる」という聞き取り調査の成果を記載しています。

柳川の民俗概観
（柳川歴史資料集成第六集）

また京町の店舗兼自宅には、鯉のぼりを揚げる場所がなかったので、店舗の前にのぼり旗だけを立てたそうです。同じく京町にお住まいの丹羽さんのお話では、京町では敷地が近接していたこともあり、鯉のぼりを揚げる家は少なかったように記憶していると言われていますが、皆様、どのようなご記憶でしょうか。各ご家庭での端午の節句の写真はお持ちではないでしょうか。

市史編さん係では、ご家庭に残る家族写真を収集しています。明治から大正、昭和戦前期の写真はもちろん、戦後、昭和30年から高度成長期にかけての柳川の写真も探しています。また初節句などのハレの日だけではなく、日常の遊びや風景、生業などの写真も大切なものだと考えます。写真は複写致しますので、アルバムをご寄贈いただく必要はありません。ぜひ、その写真にまつわるエピソードとともにご提供ください。

市史抄片別巻　vol.47

「思ひ出」写真館

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定で、現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。毎月１日号に、同委員会で集めた写真を紹介します。

【問】市生涯学習課市史編さん係（☎72・1275）

想いは吉野に馳せる ～牧園茅山の史跡探訪～

市史編さん係　宗章子

寛政 10（1789）年、藩主立花鑑寿公の招聘で藩士の列に加わった牧園茅山は、文政 7(1824) 年に藩校伝習館が創設されると安東節庵と共に教授の任に就きます。柳河藩において江戸時代の基礎学問である儒学を教えた茅山ですが、一方で彼が慕ってやまなかったのは南朝の天皇やその忠臣でした。

南朝とは、南北朝時代 (1336 ～ 1392)、後醍醐・後村上・長慶・後亀山の４代にわたって大和国吉野の地に存立した朝廷を言います。

そして南朝の忠臣として真っ先に挙げられるのが楠 (楠木) 正成でしょう。茅山は、江戸から帰藩する途中に訪れた正成の居城千早城の古瓦を、関思亮・克明（書家、鑑寿公の子息蘭斎の書道指南役）父子に贈ったらしく、その礼状が今も残っています。

（江戸）御発達後甲州より木曽路御経歴、京師御遊覧、其の後金剛山、千早、赤坂等の古迹を詣で、御探成られ、千早にて古瓦弐枚御手に入れ候に付、一枚御恵投成し下され、誠に得難きの品、御礼の申し上ぐべき様も御座無く、感荷奉り候。

金剛山（現大阪府）一帯には正成の城があり、前衛に下赤坂城、本城に上赤坂城を設け、千早城は正成が籠城戦に用いた堅牢な詰め城でした。

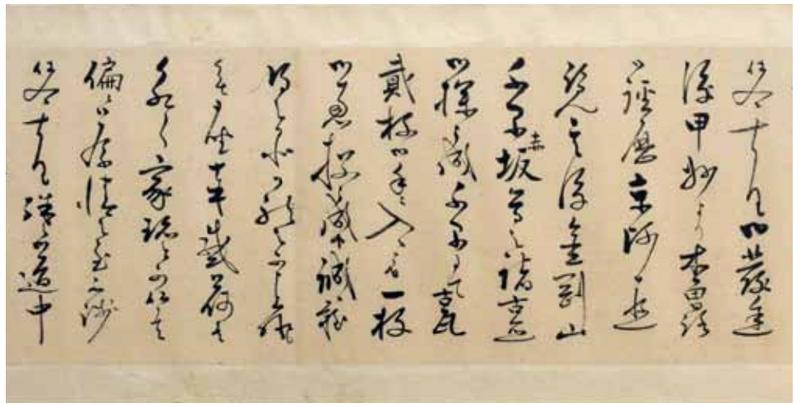
茅山の日記によると、千早城址を訪れたのは文政 9 年 3 月で、26 日条に「一ツ屋村」の「北山氏」が茅山に「千早城古瓦を贈る」とあるのが先の古瓦ではないでしょうか。

また関父子は、古瓦を同好の士に披露しています。

桑山、屋代、長崎屋江も吹嘘仕り候処、何れも殊の外感賞仕り、小子方（父子の）珍蔵と相成り候義を羨み申し候。

桑山、屋代、長崎屋は、それぞれ桑山修理（幕臣）、屋代弘賢（幕府祐筆）、山崎美成（薬種商）です。関克明とこの３人と言えば、柳河藩江戸詰の西原一甫や馬琴、谷文晁らによる奇物・珍籍の展観と考証の集い「耽奇会」が思い起こされますが、実はこの３人は、後に茅山も参加して始まる『南山巡狩録』（南朝を主とした編年史）の会読と同じ顔ぶれなのです。古瓦を前に南朝の忠臣を偲ぶ同朋の姿が目に浮びます。

こうした茅山の史跡探訪は、文政 11 年に出版される南朝と楠木正儀（正成三男）についての考証『行在或問』へと結実します。



牧園茅山宛関思亮・克明書簡

牧園茅山著『行在或問』表紙